

聞思

寺報
MONSHI
第16号
2022年4月

発行



浄土真宗
本願寺派

田野山
西敬寺



報恩講法要厳修（12月18日午前・午後2座開催）関連記事（5頁をご覧ください。）

目次

特集	お寺のビジョン作成研修報告 ～5年後の西敬寺が目指す姿～	2
	西敬寺歳時記（2021年11月～2022年3月）	4
連載	いまどきの終活の作法 ～大切なひとに負担をかけないために～ 第13回 何から手を付ける？ 終活を思い立ったらすべき3ステップ	6
	各種ご案内	8



西敬寺
公式サイト



西敬寺公式
LINE



西敬寺への
アクセス



西敬寺
YouTube

〒381-0016 長野市南堀336 電話 026-243-5570 FAX 026-403-2400

西敬寺公式サイト <https://www.tanozan-saikyoji.jp/>

浄土真宗本願寺派「寺院サポート研修」

お寺のビジョン作成研修

～お寺のみんなで寺院運営計画書を作ろう！

第1回「外部環境分析・お寺の使命」
 第2回「無形の価値・ビジョン」
 第3回「マーケティング」
 第4回「寺院運営計画発表」



昨年度、上記研修にて西敬寺の置かれている環境を把握し地域での役割を確認して、その使命を検討しました。また寺院を支える人や組織力などを「無形の価値」として捉え、持続的で実行可能なお寺のビジョン「寺院運営計画書」（5年後目指す姿）を作成しました。その内容をご報告し、有縁の皆様にご忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ幸いです。

【外部環境分析】

西敬寺が位置する長野市は、高齢・少子・非婚・核家族・家族分散化人口の流入・流出が進む中で、世帯のあり方が大きく変化しています。「日本の世帯数将来推計」による二〇二〇年推計では単独世帯が三分の一を超え、いずれ単身化するご夫婦のみの世帯も含めると二分の一を超えます。また社会状況の変化により「家」を引き継ぐにも後継者の方々の生活基盤が遠方で、従来のようなお寺との関係性（檀家制度）を保つのが難しい状況になっています。

歴史的に寺院を支えていた「家」単位の帰属意識の低下は顕著になるものと思われまます。しかし団塊の世代を中心に所属するお寺を持たない方々の分母も大きく、しっかりとした受け皿

を整えて行けば、新たにご縁を結んで頂ける可能性も大いにあります。また、当院周辺は長野市の文教地区ともされ、子育て世帯に非常に人気のある地区となっており、新規に会員（門徒）開拓を展開する可能性が大いにあります。

【内部環境分析】

四年前に新本堂を建立し、「お寺葬」を推進しています。血縁・地縁が薄れお寺との関係を見直す方や、移住されたことから新たにお寺を探している等、ご事情により門信徒（檀家）としての継続の関係ではなく「ご葬儀だけお願いしたい」とのご希望にも対応しております。「お寺葬」は既存のご門徒との「ご縁の結び直し」更には「み教えとの出遇い（ファーストコンタクト）」となるように整えています。

高齢化の影響でご参列者には、お寺とご縁が薄かったその孫世代（二十代～四十代）もいらつしゃり、その多くが子育て世代であることからご葬儀が初縁となりお寺に親しみを覚えて下さり、「初参式」・「七五三参拝」・自宅新築の「起工式」などのご依頼も増えていきます。また、喪主を務める可能性が高い五十代～七十代の方々をメインターゲットに毎月第二日曜日に「終宗活公開講座」を開催し土業の方々と連携しながら様々なお悩みに対応しています。この講座を受講して頂いている方々に「寺連研」（毎月一回連続十二回で修了）のご参加を促し、住職・坊守と寺院活動の核となって頂く方々との関係を強化しています。こういった取り組みが地域の社会福祉協議会や住民自治協議会、NPO法人・各種ボランティア団体に評価され出前講座などを行なっています。

上記の分析を踏まえ西敬寺の使命と五年後の目指すべき姿を次のようにまとめました。

【西敬寺の未来ビジョン（五年後の姿）】

歴史的にご縁を結んで来て下さった門信徒の方々はもちろん、新たにご縁を求めて下さる方々（まだお寺を探している方々、お寺に期待していない方々にも選ばれるよう）に「聞法」を経糸とし、そこに集う方と様々な実践活動の緯糸を通して、それぞれの人生という織物を仕上げていくお寺とします。地縁・血縁が薄れていく中で、新たな縁「寺縁」を結び直していきます。具体的には「お寺葬」・「終宗活公開講座」・「寺連研」を方便（入口）として「み教え」に出遇って（出会い直して）頂き、「自らが生きる拠所を聞思（「み教え」聞き自ら問いを持ち、自らが考えること）する全ての方に開かれた聞法道場」として広く認知され、より求心力を持った「お寺」を目指します。

お寺葬の推進
仏事の本来化
訴求力ある法要の提案

寺連研の拡充
各種法座の充実

ご縁を結び直すお寺
～聞法道場として再生～

新会員制度
新たなご縁を結ぶ

終宗活公開講座
オーダーメイドでお応えする相談窓口の開設

西敬寺の使命

「むずかしいことをやさしく・やさしいことをふかく・ふかいことをおもしろく・おもしろいことをまじめに・まじめなことをありがたく」をモットーに「自らが生きる拠所を聞思（「み教え」聞き自ら問いを持ち、自らが考えること）する全ての方に開かれた聞法道場」として再生し継続していくこと。

ご縁を結び直すお寺～聞法道場として再生～行動計画表（各QRから詳細がご覧頂けます。）

行動名と目標	具体的な行動計画	期間
<p>お寺葬の推進 仏事の本来化</p>  <p>聞法の場として 求心力増強</p>	<p>【広報活動の充実】 既存の公式サイト・LINE公式、紙媒体（リーフレット・パンフレット）ラジオ・テレビCMを駆使して広報活動します。また、地域社会での住職の講演活動の中で、ダイレクトにメッセージを発信し、更には「お寺葬」利用者のクチコミ効果を活用するなど認知のための方策を検討します。</p> <p>【賛同寺院・葬儀社の拡充】 現在までに当院で培ったノウハウを地域や宗派を超えて提供し、「お寺葬」のメリットを共有しながら社会全体に「葬儀はお寺で行う」という意識変化を促します。→ {目標賛同寺院数（長野県北部超宗派）現在の133ヶ寺から150ヶ寺} → {提携葬儀社数現在3社から5社へ}</p> <p>【儀式の充実】 有縁に葬儀の本来の意味を周知した上で、ご遺族・葬儀社・寺院が三位一体となって執行する体制を整えます。 →お寺葬をきっかけに、ご縁を深めつつある子育て世代に「初参式」・「七五三参拝」・「起工式」・「入仏法要」等を紹介し、その儀式内容を充実させます。 → {年間総実施目標30件}</p>	<p>実施中</p> <p>2023年 12月末 実現</p> <p>実施中</p>
<p>終/宗活公開講座の充実</p>  <p>士業の方や各業者と連携 終活の窓口として一本化 (ワンストップで対応)</p>	<p>【広報活動の充実】 既存の公式サイト・LINE公式、紙媒体（リーフレット・パンフレット）を駆使して広報活動に注力します。特にLINE公式を活用し、ターゲットに分かりやすくタイムリーに発信します。</p> <p>【協力者の拡充】 現在、行政書士・葬祭カウンセラー・家族信託士・葬儀社（3社）・遺品整理業者のみですが、弁護士・司法書士・税理士の方や介護施設経営者・ケアマネージャー・地域包括センターなどにも協力を仰ぎ内容を更に充実させます。</p> <p>【出張講座に対応】 現在も行なっていますが、市内の社会福祉協議会・住民自治協議会・NPO法人・特養・デイサービスなどの要請に応え「出張講座」を確立したコンテンツとして広めて行き、最終的に西敬寺の法座にお越し頂くようになります。→ {コロナ以前の年間実施箇所平均15件から3倍増を目指す}</p>	<p>実施中</p> <p>実施中</p> <p>2026年 12月末 実現</p>
<p>寺連研の拡充 各種法座の充実</p>  <p>活動の核となる人財育成 西敬寺独自の推進員 年間24名×5年=120名</p>	<p>【所属寺を超えた繋がり】 現在の寺連研には、当院所属の門信徒以外に今後、西敬寺に所属を考えている方や他寺に所属している方もご参加されています。「聞法」の場は誰にでも開かれているのが本来であり、所属を超えた繋がりが必要になります。それらの方々が西敬寺の法座運営に当事者意識を持ってご参加下さるよう期を重ねていきます。（現在は実質第4期）</p> <p>【修了後の受け皿となる組織の確立】 長野市という立地条件また、本山から認定を受けた連研ではない為、中央教修との連続性が無く、門徒推進員誕生に直結していない為、修了者を中心に所属寺院を超えた独自の聞法組織「聞思会」の拠点として体制を整え、新しいご法座を立ち上げ充実に繋げます。</p> <p>【地元の寺院・布教使との連携】 所属寺を超えた繋がりを求め教区寺院との人的交流を推進する。また、伝道院や教区布教団ご協力頂き積極的に若手布教使を登用します。（最終目標 例：美濃四十八座）</p>	<p>実施中</p> <p>2024年 4月 開始</p> <p>2026年 12月末 実現</p>
<p>新会員制度</p>  <p>門信徒数の減少に備え 新たな寺縁を結び直す 年間20戸×5年=100戸</p>	<p>【広報活動の充実】 既存の公式サイト・LINE公式、紙媒体（リーフレット・パンフレット）ラジオ・テレビCMを駆使して広報活動に注力する。地域社会での住職の講演活動の中で、ダイレクトにメッセージを発信。更には「お寺葬」ご利用者やご会葬者のクチコミ効果を活用します。</p> <p>【お寺葬・個別納骨壇・合同納骨壇の拡充】 既存の「お寺葬」の良さや、新本堂に併設した個別納骨壇・合同納骨壇を活用し、仏縁に遇える機会を多くつくり帰属意識の高い門信徒の獲得を目指します。また、すでに個別納骨壇の供給の臨界点が見えてきているので、樹木葬・合葬墓の新規建立を計画します。</p> <p>【新会員に門信徒としての自覚を促す】 新会員は「お寺葬をしたい」や「納骨壇を持ちたい」ことをきっかけとし入会されることが予想されますが、「聞法」の為の寺院維持という意識を持って頂くために「聞思会」の活動と連携を図ります。 *従来からの門信徒（庫裡や本堂建設のご寄付をして下さった方々やその後継世帯）との公平性を保ち、境内整備の永続性を確立する意味でも入会ご希望の方に入会冥加金に関してご理解を求めています。</p>	<p>実施中</p> <p>2026年 4月 実現</p> <p>実施中</p>

歳時記 (11月～3月)

西敬寺発祥の吉川市木賣へ

十一月二十一日ご縁が整い、長年の念願であった西敬寺発祥の地「埼玉県吉川市木売(賣)」へ赴き坊守・長男と共に、遠祖西念房道祐法師の墓参りを遂げて参りました。



埼玉県指定文化財「西念房道祐(写真)の墓」(写真右)と境内の「木賣村」(写真左)の石碑



現在は、浄土真宗本願寺派の清浄寺(藤井壽雄ご住職)様があるこの木売の地は、平安末に信濃源氏井上氏が飛地領地として権勢を誇っていた地域で、もともとは西敬寺の遠祖西念房道祐(俗名井上次郎道祐 長命寺開基)が建立したとされる西光院がありました。信濃源氏井上氏出身の西念は、その飛地領地があったとされる各所に、いくつかの寺院を建立しましたが、最晩年(一〇八歳で往生)にこの西光院に隠棲し、数多い孫の中、後に西敬寺開基となる「道栄」がお世話をしたと伝えられています。

その後、西光院は南北朝の騒乱期に一時破却され、西念に連なる一族は、現地に残る者と西念の故郷となる信濃に移住する者に分かれたと伝えられています。(西敬寺の住職家が明治になり「木賣(売)」を名乗るようになった遠因が見出せます。)

時代は下り木売の地は、小田原北條氏の支配地となり、念仏禁止により浄土真宗寺院が改宗を迫られ、西光院も破却を免れるために改宗し、真言宗寺院となったと推測されています。その後、江戸時代末期の天保十(一八三九)年に浄土真宗の信者が、真言宗となっていた西光院から旧跡一切を借り受け、清浄寺と号して再建したと伝えられています。

藤井ご住職・坊守様には、ご多用の中、ご丁寧なご対応誠に有難うございました。
*より詳しい歴史は、左のQRコードから清浄寺様公式サイト・西敬寺公式サイトにてご覧頂けます。



ご本堂の「親鸞聖人御木像」(通称：おむくさま)御前にて



二年ぶりの発表会

十二月十二日、毎週月曜日に中島玉絵先生が西敬寺で開かれているバイオリン教室の発表会が二年ぶりに西敬寺本堂にて開催されました。

演奏の合間に御法話をお取り次ぎをさせて頂く中で、「コロナ禍の中で、今まであたりまえと受取ってきたことは、実は有難いことの積み重ねが届けられていたのですね。」と、お話しすると生徒さんはじめ、先生・保護者の方々からも大きな頷きがありました。

最後は、生徒さんがご尊前に揃って温かく見守り演奏を聞き届けて下さった阿弥陀さまに「ありがとうございます。」とお念仏申されて閉会しました。



田 野 山 西 敬 寺

報 恩 講 法 要 厳 修

十二月十八日に午前・午後二座に分けて『報恩講法要』を厳修致しました。

二座共に長命寺野田康真ご住職ご導師のもと、所属のご門徒で教師教修をおえられた高梨康弘（釋康心）様と直前に得度習札

を受け得度されたばかりの佐藤浩一（釋浩）様にご出勤頂きました。

ご講師の長野市善法寺宇佐美智行ご住職からは、ご本山にて前門（大谷光真）様の侍僧（門主の身の回りの庶務に携わる僧侶）として活躍されたご経験からご本山にて大切にされているご莊嚴やご作法を

通して「報恩謝徳」のお心をお取り頂きました。

また法要を通して、熊本県明導寺様との相互復興支援活動を「本願寺新報社」様に記事にして頂きました（上記枠内）令和三年度の復興支援活動（左写真）と併せてご報告申し上げます。

長野

お念仏のご縁でつながっている

熊本

豪雨被災寺院が互いに支援しようとして交流

長野市の西敬寺（木賣慈教住職）と熊本県湯前町の明導寺（藤岡教頭住職）は、台風豪雨で被災したお互いを支援しようとして1年前から交流を続けている。12月にはそれぞれの報恩講法要に地元の名産品を送り合い、参拝者とともにつながりの尊厳を分かち合った。

は私たちが力にならなくては発信。その情報が全国に。木賣住職がそう国寺院や、柔道で交際しているところの起流のある母校・龍谷大きたのが九州地方を襲った20年7月の「令和2年7月豪雨」だった。ほどの支援物資が明導寺に寄せられた。

この豪雨で被災した熊本県湯前町の明導寺に寄せられた。木賣住職もそのSN Sを見た一人。「復興市に隣接する湯前町の求心力にならないうる藤岡さん（47）は被災当日から九州の被災地に入り、連日、地元仲間ととも育つたりんごが吉・球磨の皆さんの希望の光になれば」と復興支援りんごを送り、交流が始まった。

西敬寺は2019年、寺から注文をいいた10月の台風19号がもたらした「令和元年東日本台風」で被災した。温かさを身をもって感じたという。「いただいたご恩は寺から近い長野地区では千曲川が決壊し、門徒30戸余りが床上・床下浸水。名産のりんごを作る門徒の果樹園も多量に水に浸かった。木賣住職（48）はボランティアや寺独自で開く連続研修会の参加者らと泥出しや仏壇の搬出の手伝いを行う中、被災を免れたにもかかわらず出荷できないりんごが多くあることを聞き、売り上げの一部が支援金になる「復興支援りんごプロジェクト」を立ち上げ、寺が窓口になって販売を助けてきた。



木賣住職は「対応できる範囲が限られているので、販売は本願寺派の寺院のみとさせて頂いたが、ボランティアで駆けつけてくださった方や各地のお

「面識のない木賣さんから突然りんごが届いて驚いたが、被災した同土助け合いたいという思いが心強〜うらげ〜を本堂に供え、本州と九州1000Q離れた同寺の住職は法要後、「被災するまで面識はなく、また直接お会いしたこともないが、お念仏のご縁でつながっていることを実感する。浄土真宗を美談する。浄土真宗の同じ日にそれぞれ支援りんご2000個の自坊の報恩講とあわせて販売会を実施（同上）つなごう。災害が起きてから行動することも大切だが、日頃から15分入りを1箱求める人もいて完売した。藤とできる宗門であれ

「面識のない木賣さんから突然りんごが届いて驚いたが、被災した同土助け合いたいという思いが心強〜うらげ〜を本堂に供え、本州と九州1000Q離れた同寺の住職は法要後、「被災するまで面識はなく、また直接お会いしたこともないが、お念仏のご縁でつながっていることを実感する。浄土真宗を美談する。浄土真宗の同じ日にそれぞれ支援りんご2000個の自坊の報恩講とあわせて販売会を実施（同上）つなごう。災害が起きてから行動することも大切だが、日頃から15分入りを1箱求める人もいて完売した。藤とできる宗門であれ



復興支援「りんご」プロジェクト

ご支援に直接ご恩返しは出来ないけれど産地を守り、美味しく安全な「りんご」を育て続けることで未来へ恩送り



本年度もご支援有難うございました

累計1.88tを有縁の皆様にお申し込み頂きました！！



1月31日をもって終了いたしました今回の活動にて皆様からお寄せ頂いた支援金（りんご1キログラムにつき25円）

合計47,000円を「ポンド童」

徳永慎吾代表に本日（2月1日）にご進呈してまいりました。徳永会長より「皆様の重ねてのご支援を大切に産地復興に活用させていただきます。」とのお言葉を頂きました。

ご支援賜りました皆様にご報告申し上げます。

ステップ2 課題・問題点を洗い出す

ステップ1でのヒトモノカネを切り口に課題・問題点を洗い出しましょう。私がこうお伝えするとほとんどの方が「うちの家族は仲がいいから揉めるような心配はないですね。そもそも揉めるほどの財産も有りませんし。ハハハ」とおっしゃいます。しかし、大前提（自己の不存在）という視点に立ってもう一度冷静に想像してみてください。この先も変わらず家族関係が良好と言い切れるでしょうか。ちょうど相続が発生したときにお子さんたちは進学や家のローンなどまとまったお金が必要な状況かもしれませんし、誰だって少しでも多くもらいたいものではないでしょうか。

ヒトモノカネをまとめ終わったら自己の不存在という視点に立って、トラブルが明確な場合だけでなく、想像力を働かせて起こりうるトラブルを想定しておくことが重要です。仲裁したり、論したり、言葉で伝えたり、そうしたことができない（不存在である）ことを理解しましょう。



ステップ3 課題・問題点への対策を準備する

ステップ1ヒトモノカネの再確認・状況把握、ステップ2課題・問題点の洗い出しを終えたらそれぞれに適した準備や対策を講じましょう。準備や対策と一言と言っても遺言、エンディングノート、生前贈与や家族信託、後見制度など多岐にわたります。場合によっては法的な事柄よりもまずは家族関係の修復かもしれません。対策にはそれぞれできることできないことがありますので本やインターネット、さらには専門家等を活用してご自身に最適な準備や対策を講じていきましょう。せっかく準備してもカバーできていないところがあったり、そもそも効果がなかったでは目も当てられません。

最後に、講じた対策などは定期的に見直すことをお勧めします。前述したとおり、今は良くてこの先どのように状況が変わるか予測できないところもあります。お正月やお盆など、家族が集まるタイミングを利用して話し合ったり、対策のアップデートを行いましょう。

ここまでお読みいただきありがとうございました。

家族や大切な人に迷惑かけたくない、負担を軽くしてあげたい、との思いから終活に取り組む方はその思いが強いがゆえに気持ちばかりが空回りして前に進めなくなってしまうケースが見受けられます。きちんとステップを踏むことでご自身に適した準備や対策を講じ、より一層充実した人生を送りましょう。

毎月第2日曜日開催の「終/宗活公開講座」（同封のチラシ参照）にぜひ一度お越しくださいませ。皆さまが一步を踏み出すきっかけや、困りごと解決の緒につながるよう情報を準備してお待ちしております。



事務所サイト

<https://www.office-angei.com/>

— ご意見・ご要望・ご質問などお気軽にお寄せ願います —

伊藤 安芸：行政書士伊藤安芸事務所代表

（行政書士・家族信託専門士・葬祭カウンセラー）

TEL026-219-6373 メール y-ito@office-angei.com

いまどきの終活の作法～大切なひとに負担をかけないために～

第13回 何から手を付ける？

終活を思い立ったらすべき3ステップ

皆さんこんにちは。行政書士の伊藤安芸です。今では一般的な「終活」という言葉。テレビや雑誌でも特集が組まれたりセミナーが開催されるなど知らない人はほぼいないくらいメジャーになりました。しかし、いざ実際に取り掛かろうと思ったときに何から手を付けていいのか、どのように考えたらいいのか悩んでしまう方が多いのも事実です。今回は、取り掛かる順番を3ステップに分けて考えてみたいと思います。

大前提：終活における死を理解する

死とは一般的には①心臓の停止②自発呼吸の停止③瞳孔の散大で判断されます。しかし、終活においては自己の不存在となります。自分がそこにいれば仲裁したり、諭したり、言葉で伝えたり、そうしたことができない（不存在である）ことを理解しましょう。

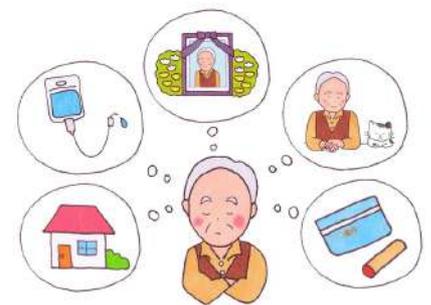
ステップ1 ヒトモノカネで考える

1-1 ヒト

- ・相続人が誰なのか再確認する
- ・相続人との人間関係、その人たちの状況も再確認する
→認知症等で意思表示ができない、連絡が取れない（疎遠・生死不明等）の人がいる場合は要注意
- ・その他、相続人ではないが財産を渡したい人（パートナー・友人等）や団体・施設などがある場合も要注意

1-2 モノ（お葬式・供養含む）

- ・不動産やその他の資産（ゴルフ場会員権等）のリスト化
- ・生前贈与、相続、処分等で区分する
- ・お葬式や供養についても希望がある場合は書き出す
→生前に葬儀社等と契約を交わしても遺族が知らないと実現されないリスクがある。
- ・希望は具体的に書く
→質素・簡素という表現は避ける（受け取り方は人それぞれ）



1-3 カネ

- ・現預金を把握する／口座をリスト化する（金融機関名・支店名・口座番号等）
→ネット銀行、通帳のない口座は特に注意する
- ・この機会に口座の整理も考える

生まれて **初** めて
阿弥陀様にお **参** りする
お祝いの **式** を西敬寺で

七五三記念参拝も大歓迎

初めて神社にお参りすることを「お宮参（みやまいり）」といいますが、浄土真宗では、初めてお寺にお参りする儀式を「初参式（しょさんしき）」として大切にしております。

受式の目安は、生後100日目～1歳頃とされていますが、年齢に制限はございません。「七五三記念参拝」も承っております。

* 西敬寺では、他のご家族と同時には行いません。（ご家族だけの特別なお時間をご用意させていただきます。）

* お申し込みは随時承っておりますので、お気軽に住職・坊守のお尋ね下さい。西敬寺LINE公式からのお申し込みも大歓迎です。



初参式次第

- ご家族ご親族に住職・坊守がお出迎え
 - お茶のご接待
 - * この間に初参式の流れについてのご説明をいたします。
 - * ご用意した色紙にお子様の手形を押して頂きます。
 - 本堂にて開式
(開式から記念撮影まで、約30分になります。)
- 合掌礼拝
 - 三奉請（さんぶじょう）・表白（ひょうびやく）
 - * ご法要の意味に住職が阿弥陀さまにご奉告いたします。
 - 勤行「讃仏偈」
 - * 順番にご焼香。
 - 法話・記念品贈呈
 - 合掌礼拝
- 記念撮影
 - ▶ 法要後「祝膳（ご会食）」もご用意も出来ます。

初参式・七五三参拝の記念品

西敬寺ではの0歳～2歳のお子さんには①～③のスタイを3歳～のお子さんには④～⑥の式章をご用意しておりますので、お申し込みの際にどれか一つお選び下さい。



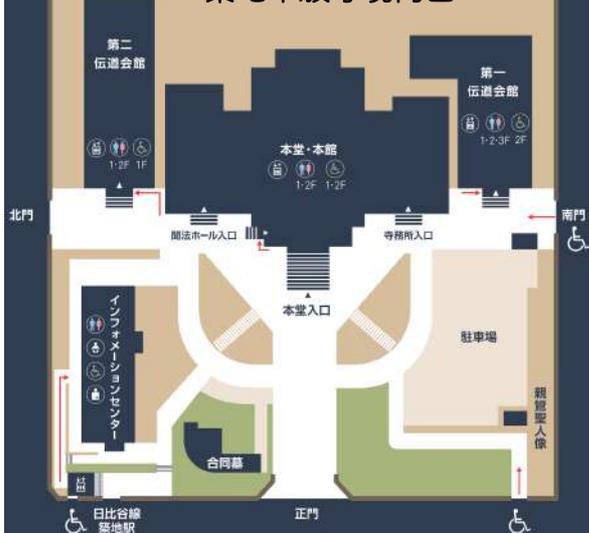
築地本願寺

「仏さまの教え」に

5月26日（木）～29日（日）の間、住職が出講します。

ご縁整われましたら是非お運び下さいませ。

築地本願寺境内図



場所	朝のお話 ▶ 本堂 午前・午後・夜のお話 ▶ インフォメーションセンター
日時	朝のお話 ▶ 7:00からの勤行に続き 5分程度 【27日（金）～29日（日）】 午前のお話 ▶ 10:30～11:40 【27日（金）～29日（日）】 午後のお話 ▶ 13:00～13:40 【26日（木）～29日（日）】 夜のお話 ▶ 19:00～19:40 【26日（木）・27日（金）】

お申し込み不要・ご聴聞無料



浄土真宗本願寺派

築地本願寺



YOUTUBEチャンネル



上記時間YouTubeにてライブ配信がございます。左のQRコードを読み取ってご視聴下さい。

令和4年度
(仏暦2565年)

西敬寺永代経法要

令和4年5月15日(日)



ご法話 「長生不死の神方」

ご講師 木村 世雄 (きむら せいゆう) 師

大阪府堺市 真光寺御住職・文学博士

「長生不死の神方」という言葉は、もとは神仙術でいわれた言葉であって「梵焼仙経帰楽邦」にも通じるが、永遠に死なないことを求める(無量寿)のが仏教の目的である。如来回向の信心をうれば生死(しょうじ)をこえ、阿弥陀仏と同じ無量寿をえしめられる、という念仏の功德について曇鸞大師の功績を訪ねつつ、御取次させていただきます。(以上 ご講師からのメッセージとなります。)

「亡き人を案ずる私が、仏となりし人に案じられている」
ご一緒にお導きにあいましょう。

【開催要項】感染症対策として以下のように開催いたします。

▶三密を避ける為、以下のように2座を地区ごとに振り分けてご案内します。

*振り分けはあくまでも目安なので、お参り可能なお座にお運び下さい。

第1座 午前10:00～11:30 (受付9:30より)

豊野・長沼・柳原・古里・朝陽・吉田・稲田・三輪

第2座 午前13:30～15:00 (受付13:00より)

若槻・浅川・若穂・松代・芹田・古牧・長野・川中島・篠ノ井・更北・長野市外

▶完全事前予約制とさせていただきます。お申し込みは同封のハガキにてお願い致します。

*お申し込み後、ご体調が優れない場合はご遠慮なくキャンセル下さい。

▶本堂正面入口に受付を設けます。消毒液を設置しますのでご利用下さい。

▶御斎(懇親会)のご接待は中止させていただきます。

*受付にてペットボトルのお茶等をお配り致します。

▶ご参拝記念品として熊本県 明導寺 藤岡 教頭 住職が復興支援の一環としてご製作された『一筆箋』(右写真を)ご用意しております。



▶長野市の警戒レベルの推移により中止のご連絡を申し上げます。

服装・お持ち物・御布施・法名簿に関しては裏面をご確認下さい。

当日の服装とお持ち物に関して

平服（仏様に対して節度を持った服装）でお願いします。
 感染症対策の為マスクのご着用をお願いします。
 お念珠・門徒式章（お持ちの方）はご持参下さいませ。
 また、お経本（写真）をご持参頂ければ幸いです。お持ち
 で無い方には当日受付にて貸出いたします。



男性用は紐房



女性用は切り房



門徒式章

御布施（参加費）に関して

右のような「のし袋」（もしくは白い封筒に等）に
 お包み頂き「法名簿」とご一緒に受付にお預け下さい。
 ご尊前にご奉呈申し上げます。



ご参拝者のご芳名
 (連名も可)



お経本

法名簿ご記帳とご奉呈のお願い（同封の法名簿をご利用下さい。）

近年の核家族化や人口の首都圏流出という背景の中で、代々受け継がれてきた年回忌（ご法事）のご縁を結んで頂くことが難しくなっております。更には、多忙を極める日々の生活の中で、年が流れゆくことを忘れ大切な年回忌のご縁を「見失ってしまった」と、正直にお話してくださる方が増えて参りました。永代経法要を前に、過去帖（もしくは、繰り位牌・位牌）をご確認頂くことで大切な方々の年回忌を思い出して頂ければ幸いです。

【ご記帳のご留意点】

- ①ご記帳に際しては、筆・筆ペン・ボールペン・万年筆等をご利用下さい。
- ②一周忌から五十回忌に該当される有縁の方を右詰めにて近年からご記入下さい。（該当する方が六名以上の場合は新しい方をご優先下さいませ。）
- ③一周忌から五十回忌に該当される方がいない場合は、右詰めにて「○○家先祖累代永代読経」とご記帳下さい。

【法名簿のお預かりに関して】
 永代経法要当日、受付にて 御布施と合わせてお預かりし、ご尊前にご奉呈させて頂きます。

*コロナの流行により当日のご参加が叶わない方々が、ご法要に先立って御布施と併せてお届け下さることが増えておりますが、記念品をお渡し致したく、たいへん勝手ながら事前受付は五月九日～十四日の午前八時～午後五時まで随時とさせて頂きます。

【ご記帳例】

お布施をご奉納下さる方（ご参拝者）のご芳名（連名も可）

ご先祖（有縁の方々）のご法名

お亡くなりになられた年月日（新しい方から順番にご記帳下さい）

年回忌早見表と照らし合わせてご記帳下さい。

令和4年 年回忌早見表

1周忌	令和3年
3回忌	令和2年
7回忌	平成28年
13回忌	平成22年
17回忌	平成18年
23回忌	平成12年
27回忌	平成8年
33回忌	平成2年
50回忌	昭和48年

上記の年回忌に該当されるご門徒の皆様には出来るだけご参加下さいますようお願い申し上げます。

施主	法名	命日	回忌
釋 尼 和 代	釋 慈 音	昭和五十年四月一日	四十一
		平成三年四月二十二日	二十五
		平成五年十月十四日	二十三

お仏壇の通法帳（繰り位牌・位牌）をご確認頂き、一周忌から五十回忌に該当される有縁の方のご法名をご記帳頂き、永代経法要当日にご持参の上、受付にてお布施と合わせて奉納下さい。当日のご参加が困難な場合、任意にて事前にお預かり致します。仕職が皆様を代表して御尊前に奉呈致します。尚、ご記帳に際しては、別紙の年回忌表と記帳方法を御覧ください。